

解答（小論文国内D）

長崎市において進められている大規模インフラ整備と、スタジアムを核としたスポーツツーリズムの展開により期待できる具体的な観光メリットの一つは、観戦を目的とした来訪を、滞在型観光へと転換できる点である。アウェイツーリズムでは、試合観戦を主目的として他地域から多くの来訪者が訪れるため、一定数の交流人口が安定的に見込まれる。これを長崎の歴史、文化、食と結びつけることで、観戦前後の宿泊や市内観光、飲食消費の拡大につながる可能性が高い。

特に長崎は、異国情緒あふれる街並みや世界遺産、独自の食文化など、短時間でも魅力を感じやすい観光資源を有している。そのため、スタジアムを訪れたアウェイサポーターが「試合だけで帰る」のではなく、「もう一泊して長崎を楽しむ」という行動変容が生まれれば、一人当たりの観光消費額の増加が期待できる。

この効果を生むために必要な視点として重要なのは、スポーツと観光を切り離さず、来訪者の動線を意識した一体的な仕組みづくりである。例えば、試合日程に合わせた観光コンテンツや飲食店との連携企画、アクセスの分かりやすい情報発信を行うことで、初訪問者でも行動しやすい環境を整えることが求められる。また、サポーター文化を尊重し、歓迎する雰囲気づくりを地域全体で共有することも重要である。

アウェイツーリズムは一過性の集客にとどまらず、再訪や口コミによる認知拡大につながる可能性を持つ。スポーツを「巨大な装置」として活用し、地域の魅力と結びつける視点を持つことが、長崎の持続的な観光振興において不可欠であると考え